

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	日によって玄関のドアを開放しているときもあるが、通常は玄関前の道路が急坂になって危ないため、事故防止の目的で玄関入口をオートロックのドアで施錠していることが常態化している。	玄関に鍵をかけるのは安全上仕方がないという意識を変え、どういう状況をつくれれば鍵をかけなくても利用者が安全に過ごせるか工夫し、日中は全面開放を目指す。	無断外出が心配される利用者の行動・心理パターン(外に出たくなる状況や理由、時間帯など)の把握。外出されたことがわかるような工夫や開放時間帯の職員体制、利用者の所在のチェック方法などの検討。家族の説明と理解を得る。	3ヶ月
2	13	全ての職員が研修を受けられるような体制ができておらず、研修に参加できる機会も多くはない。職員は勤務の関係もあり研修参加者人数は限られている。	日常的に学ぶことを推進し、地域における外部研修の情報を収集するとともに地域の事業者とも協力しながら自ら研修を開催しできるだけ多くの職員が身近な研修に参加できるようにしたい	新任・現任職員を対象とした段階に応じた研修体制を作り職員の資質向上を図る。地域の介護事業者と合同研修会を開催する。多くの職員が研修や講習に参加しやすいような勤務体制をつくることで人材育成に取り組む。	6ヶ月
3	26 (10)	利用者の要望や変化に基づいて定期的に介護計画の見直しをしているが、モニタリングが不十分である。また包括的な介護支援経過記録となっていない。	利用者の要望や変化をとらえ、現状と介護計画がマッチングしているかなど利用者の状況と計画の実践状況の把握ができるモニタリングを実施する。また介護計画に沿った支援内容がわかるような支援経過記録にしたい	独自のモニタリング表を作成し、ケアカンファレンス開催時もしくはホーム長、リーダー、サブリーダー、介護支援専門員、担当者などでモニタリングを行う。介護支援経過記録の記載の仕方、内容について話し合いをする。	3ヶ月
4	48	外出や行事、季節ごとの楽しみを感じられる支援は行っているが、一人ひとりにあった楽しみごと、気分転換、笑顔や活力を引き出す働きかけを増やしたい。	脳を活性化し、気分転換や楽しみにつながるようなレクリエーション(ゲーム、カラオケなど)や手先を使った作業、作品作りなど、屋内で楽しく気軽にできるような支援を充実させたい。	利用者が楽しめるレクリエーションや手作業などを他事業所との交流や勉強会を通じて学ぶ。支援内容や時間帯、方法などについて話し合い、一人ひとりがどんなことに興味を示し、どんな時に笑顔を見せられるかなどを把握する。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。